

再 評 価 書

事業名	一級河川 芥川 総合流域防災事業	事業区分	河川	室名	河川・砂防室 (鈴鹿建設事務所)
事業概要	工 期 (下段：前回)	S60年～H40年	全体事業費 (下段：前回)	4,940 百万円(負担率：国 0.5：県 0.5)	
		S60年～H40年		4,940 百万円(負担率：国 0.5：県 0.5)	
事 業 目 的 及 び 内 容					
<p>(1) 事業目的 芥川沿川の浸水被害防止を目的に、河道掘削及び拡幅等の改修により計画流量の流下能力を確保し、治水安全度の向上を図ることが当事業の目的です。</p> <p>(2) 事業の内容 事業区間延長：L=1,800m ①築堤工 L=3,600m、②掘削工 V=93,360m³、③護岸工 L=3,600m、④橋梁 5 基⑤用地補償 1 式、⑥樋門・樋管 1 基、⑦床止工 1 基</p>					
事 業 主 体 の 再 評 価 結 果					
<p>1 再評価を行った理由 社会経済情勢の急激な変化等（B/C 算出における氾濫解析手法の見直し）により再評価を実施する必要が生じた事業であるため、三重県公共事業再評価実施要綱第 2 条第 4 項に基づき再評価を行いました。</p>					
<p>2 事業の進捗状況と今後の見込み ①昭和 60 年度 事業採択、着手 ②昭和 60 年度 用地取得開始 ③昭和 63 年度 工事着手 ④平成 14 年度 事業再評価 ⑤平成 19 年度 事業再評価 ⑥平成 21 年度現在までに事業費ベースで 60%が完了予定 ※平成 40 年度に整備完了見込みです。</p>					
<p>3 事業を巡る社会経済状況等の変化 ○周辺環境 上流部には両岸に水田が広がり、下流部は民家・工場・鉄道が隣接しております。右岸側の鈴鹿川本川との間には東海道の四十五番目の宿として発展した庄野町があります。 芥川流域内における周辺環境の大きな変化はありません。</p>					

4 事業採択時の費用対効果分析の要因の変化、地元の意向の変化等

4-1 費用対効果分析

(平成19年度 費用対効果分析結果; H17年 治水経済調査マニュアルによる)

総便益/総費用 B/C = 647.22 億円 / 48.23 億円 = 13.42

※総便益 = 年便益の総和

※総費用 = 全体事業費(現在価値化) + 維持管理費(事業費の0.5%現在価値分)
- 残存価値(現在価値化)

(平成21年度 費用対効果分析結果; H17年 治水経済調査マニュアルによる)

総便益/総費用 B/C = 386.43 億円 / 48.48 億円 = 7.97

※総便益 = 年便益の総和 + 残存価値

※総費用 = 全体事業費(現在価値化) + 維持管理費(事業費の0.5%現在価値分)

○B/C低下の要因

- ・氾濫解析手法の見直し

4-2 地元意向

芥川では、早期改修実現のために「芥川改修促進期成同盟会」を設置しています。改修によって洪水被害への不安が解消されると地域の発展が見込まれるため、河川整備は周辺住民の強い願いになっています。

5 コスト縮減の可能性や代替案立案の可能性

5-1 コスト縮減

河床掘削等による発生土を近隣の他事業に流用する等検討、また、護岸材料、工法の新技術の活用等によりコスト縮減ができるよう検討します。建設機械の排出ガス、騒音等の環境対策に努めます。

5-2 代替案

①『ダム案』 流域の大部分が平地でありダムの適地はありません。

②『遊水地・調整池案』 沿川に広がる広大な農地を犠牲にすることになり、遊水地・調整池として新たに用地を取得することや、補償することは困難である。

∴過去から河道改修を進めてきた経緯もあることから、芥川では河道改修が妥当と考えられます。

再 評 価 の 経 緯

平成19年度委員会意見

平成19年度再評価委員会では、事業継続の妥当性が認められたことから事業継続を了承する。ただし、河川事業は、安全・安心に関わる事業であるため、事業効果を早期発現するための方策を立てるよう求めるものである。

対応方針

ハード整備として引き続きコスト縮減を図りながら護岸整備を行っていきます。

ソフト事業として鈴鹿市と連携を図りながら洪水ハザードマップの作成を予定しております。

事 業 主 体 の 対 応 方 針

三重県公共事業再評価実施要綱第3条の視点を踏まえて再評価を行った結果、同要綱5条第1項に該当すると判断されるため当事業を継続したいと考えています。